

日本野外教育学会第21回大会自主企画シンポジウムのご案内

自主企画シンポジウムは、第21回大会に参加する学会員自らが、テーマ、司会者、話題提供者、指定討論者等を設定して実施されるシンポジウムです。

自主企画シンポジウム1

テーマ：「野外教育と森林教育とのコラボレーション」

A Collaboration of Outdoor Education and Forest Education

企画者：井上真理子（森林総合研究所多摩森林科学園）

企画の趣旨：昨年の第20回記念大会の企画委員会シンポジウムでは、これからの野外教育の発展に向けた課題のひとつに、他学会との連携が挙げられました。近接学会には、日本森林学会があります（1914年創立、会員数約3,000人）。今年、森林学会に「教育」部門が新設され、他学会とのコラボレーション企画があり、野外教育学会の会員も参加しました。森林教育は、自然や植物の観察、林業、木工、木育、森のようちえんなど、活動の幅が広い分野です。野外教育とは、プログラム内容だけではなく、森林環境という教育の場、目指す教育目標、指導方法、実践型の研究手法など、多くの部分で共通しています。本シンポジウムは、森林学会教育部門とコラボし、野外教育と森林教育との連携の可能性を探るために森林教育の話題提供を行います。実践事例から、教育の実践内容を科学的に読み解く研究を進めるには何が必要か、さらにいかに野外教育と森林教育の発展を目指すか、皆さんと共に考えていきたいと思いません（後援：日本森林学会、申請中）。

自主企画シンポジウム2

テーマ「野外教育における心理臨床的アプローチ

ー発達障害の子どもとその保護者が参加するキャンプの事例からー」

Therapeutic Approach in Outdoor Education Program :A Case Study of Family Camping for a Child with a Developmental Disorder and Parents

企画者：坂本昭裕（筑波大学）

企画の趣旨：文部科学省が実施した調査によると通常学級に発達障害、もしくは類似の様態を示す子どもが6.5%程いることが報告されています。この報告に示される通り、発達障害の子どもがキャンプに参加することも特別のことではなくなりました。発達障害のある子どもの場合、社会性の困難により、対人的な問題が生じやすい特徴があると言われていました。したがって、この特性や支援方法に対する家族あるいは、キャンプに携わるスタッフの共通理解がなければ、対人関係のトラブルや精神的な不調が起こりやすく、集団生活に適応することが難しくなります。したがって、発達障害のある子どもたちが安心してキャンプに参加し活動できるような場作りが大切なように思います。このような場がキャンプにおいて提供できるならば、発達障害のある子どもは個性を発揮しつつ成長を遂げてゆくものと思われれます。また、共に参加する保護者においても、日常と異なるキャンプという場で、いつもと異なる子どもの様子を知ることで、親子関係の改善になることもあります。また、保護者同士で情報・知識を得る場ともなります。本シンポジウムでは、発達障害の子どもとその保護者が共に参加するキャンプの事例から、子どもにとっての意味、保護者にとっての意味について考えてみたいと思います。

自主企画シンポジウム3

テーマ：「次世代の野外教育のプロを育てるために」

To nurture professionals of the next generation outdoor education

企画者：島崎晋亮（信州アウトドアプロジェクト/WEAJ）

企画の趣旨：今後、野外教育を仕事として従事する若者が増えていくことが野外教育業界の発展には欠かせないことであると思います。このシンポジウムでは、野外教育業界にて第一線で活躍されている方々を話題提供者にお招きし、最近の野外教育業界の仕事や、需要が伸びているクライアント像を紹介いただき、どのような人材が必要となっているのか、また今後どのような人材を求めているのかを考えていきます。その上で、そのような人材を育成するために必要なことをフロアーの皆様と協議しましょう。

自主企画シンポジウム4

テーマ：「青少年教育施設で育つ学生ボランティア

青少年教育施設×ボランティア×野外教育がもたらす価値を考えるー」

The student volunteer who grows up at youth education facilities :“Youth education facilities x volunteer outdoors education” but the included value is considered.

企画者：及川 未希生（国立妙高青少年自然の家）

企画の趣旨：国立青少年教育振興機構では、全国 28 施設でボランティア養成を行っており、学生を中心とした約 2500 名（平成 28 年度実績）がボランティア登録をしています。これまで、ネットワークの構築を目的とした「学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」など、コミュニティを越境した連携を実施してきましたが、青少年教育施設における産学官民が連携したボランティア育成の取組は少なかったように思われます。この企画では、青少年教育施設における学生ボランティアの学びと成長をテーマに、学生を送り出す教員の方々、受け入れ側である企業・団体、そして青少年教育施設関係者がそれぞれの視点で意見を交わすことで、人材育成拠点としての「青少年教育施設」の潜在性と、青少年教育施設で育まれる（あるいは育てて行かなければならない）諸能力の獲得に「野外教育」がもたらす価値について一緒に考えていきたいと思っています。